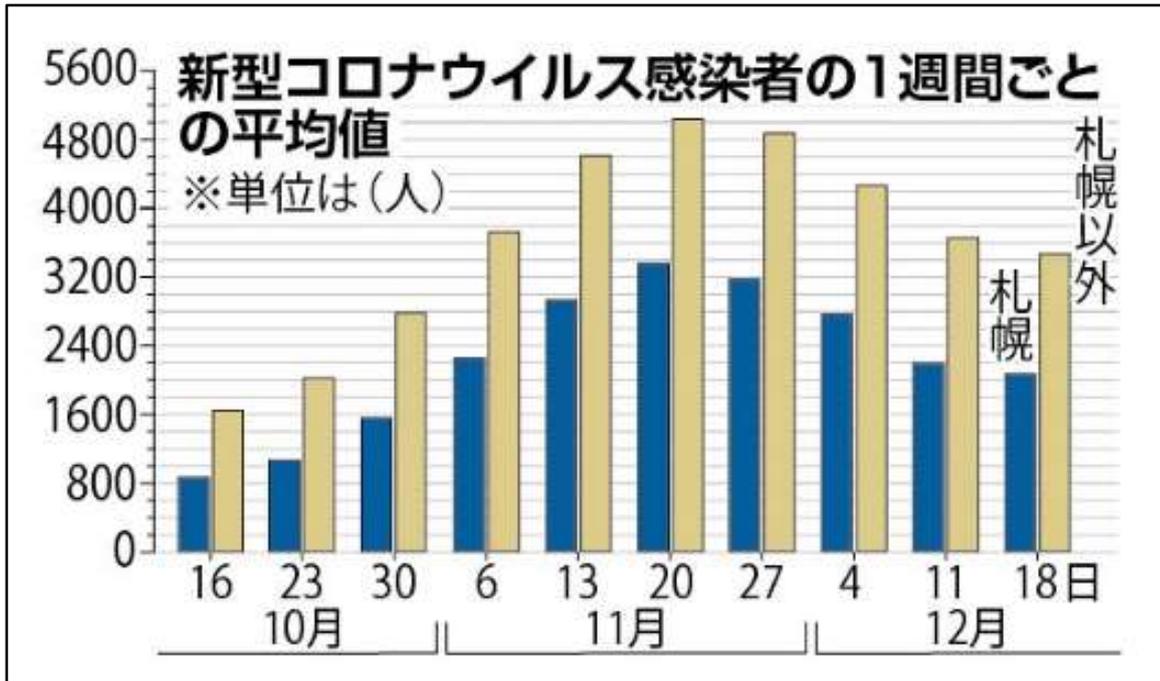


<横田教授の「コロナ」チェック>北海道の減少ペース鈍化、感染再拡大に注意

2022年12月19日北海道新聞



道内の直近1週間（12日～18日）の新型コロナウイルスの感染状況は、札幌、札幌以外ともに減少傾向が続きましたが、ペースの鈍化が鮮明になりました。旭川と函館ではほぼ横ばいとなり、下水からウイルスを検出する札幌市の疫学調査では2週間連続で検出数が増え、今後全道で感染が再拡大する可能性も否定できません。いま一度、感染を広げないための行動を意識しましょう。

新規感染者の週平均は、札幌が前週比6・0%減の2067・9人、札幌以外が同5・0%減の3479・1人でした。1週間前の段階では、札幌が20・5%減、札幌以外は14・4%減でしたので、減少幅は明らかに小さくなっており、旭川は同0・6%減でした。ただ、函館は同0・5%増と減少傾向から微増に転じました。

札幌市の下水疫学調査では、直近2週間（11月28日～12月4日、5日～11日）連続で、下水から検出されるウイルス遺伝子数が増加しました。

これまで、検出数の動きは、新規感染者数の増減を先取りする傾向を示していました。新規感染者数の減少スピードが鈍化している状況と合わせると、感染の波が収まる時期が見通せなくなっただけでなく、早ければ年内にもう一度、感染拡大に転じる可能性も考えられます。

年末に再拡大期が重なると、会食や帰省による人の移動で感染リスクが一層高まることが懸念されます。会食の人数の見直しや、帰省先で大人数で集まることを避けるなど、リスクを低くする行動を心がける必要があります。

帰省では、普段一緒に生活していない若い世代と高齢者が顔を合わせる機会が多くなります。感染者が増えた今秋は、高齢者の死亡者数が増えました。命に関わる事態を防ぐためにも、特に高齢者や重症化リスクの高い人と会話をしたり、食事をしたりする際には、感染対策を徹底できているかをしっかりと確認することが大切です。

（聞き手・加藤祐輔）